



# 齋館と儀式殿

齋館とは祭礼前に奉仕者が潔齋を行い外界の穢れを嫌ってお籠もりをする建物のことをいい、神社では本殿などに準ずる大切な社殿です。

戦後の丹後では「結婚式はこんぴらさんで」といわれるほど婚礼の要望が多くなり、昭和四十年代には年に三〇〇組もの婚礼が挙げられました。齋館和室は婚礼控え室や披露宴会場として用いられましたが、多くの要望に答えきれず昭和三十四年には新館を増築し、昭和四十七年には会館が新築されました。五十九年には神殿が整えられ、



建設中の齋館と儀式殿



現在の齋館と儀式殿

以降初宮詣や七五三詣などの報賽祈禱は儀式殿で行っています。近年婚礼の減少とともに齋館の利用も減っていましたが、二百一年祭を契機に始まった「こんぴら手づくり市」や「こども論語塾」で活用いただいております。参加者には神社齋館の風情も楽しんでいただいております。

## 有栖川宮熾仁親王宸筆

儀式殿内には有栖川宮熾仁親王宸筆『皇祚無窮』の額があります。明治二十一年にご夫妻での親拝があり、当時まだ御山の麓にあった齋館にご休憩されていたようです。

## 橋本関雪の扁額

儀式殿正面にかかる扁額『揚国風』（国風を掲げる）は昭和十年頃に峰山に逗留していた橋本関雪の筆によるもので、原書は齋館の和室に掲げられていました。関雪は「こんぴら宝船図」も遺しており、この画は結婚式の記念品などに用いられています。



有栖川宮熾仁親王宸筆



儀式殿扁額「揚国風」

## 楷の木を植樹

丹後こども論語塾で「楷の木」を献木することとなり、四月教室の際参加者皆さんで植樹作業をしていただきました。楷の木は「孔子木」といわれ、孔子の靈廟には弟子の手で植えられたものが繁茂しており、日本にも大正期にもたらされて、各地の藩校跡や孔子にゆかりの地で増えているそうです。

大木に育ち秋には見事な紅葉をするそうですので、論語塾のこどもたちと共に成長していく姿が楽しみです。



論語塾こどもたちによる植樹

# 松養生作業

数十年前から松枯れ被害に苦しめられてきましたが、クイムシ」とよばれる被害特に昨年夏の酷暑と少雨の影響が境内の多くの松が弱ってしまい、社務所中庭の一本と亀の池南側の松はついに手遅れとなり伐採しました。

残った松をなんとか守ろうとこの度初めて樹木医の方に診てもらい根本治療に着手、根のある地面の環境を変えるため、松と共生関係のあるきのこの菌と炭を埋める作業をしていただき、山内の樹木も生育が難しくなっているようで大変心配となります。



松の根本治療作業



# 奉納御礼

大祭の折に参道を飾る祭礼大幟の傷みが進み、神社役員総代一同らによって新調ご奉納いただきました。

祭礼大幟四対	井上敏隆	錦上悦	中葉研	松本力	山西徳彦	山本修志	藤原一	井上修	森孝道	吉田義	寺田富	平田富	安岡勲	祭礼大幟二対
平成二十五年七月	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	平成二十六年四月



新調奉納された祭礼大幟

## 金刀比羅会 役員名簿

敬称略

会長 稲葉悦男  
副会長 西垣徳彦 松本研二  
監事 藤原邦夫 井上五朗 横井邦夫

### 地区評議員

### 指名評議員

### 地区委員

元町区 早川邦生	山下重雄	金安義孝	川島三次
一区 吉岡 勲	岡崎一芳	吉岡博泰	羽田陽次
二区 吉岡邦雄	北垣達夫		
三区 松村 繁	安田清志		
四区 赤岩 淳	吉見英次	粟倉正雄	
五区 寺田泰政	田中啓一		
六区 田中敏和	横井邦夫		
七区 尾早敏明	山本英雄		
八区 高橋岩夫	木村成信		
九区 寺田義明	由利敏雄	中西 実	
十区 稲葉悦男	中川芳隆		
十一区 堀井久男	木下謙太郎	奥田晋也	
十二区 大森孝市	小西哲夫	中村和正	
十三区 芦田登美子	松本鐘三郎		
十四区 沖 一	小野甚一	中村健之	中井 望
十五区 岸村 進		吉田件昨	
十六区 中山幸典	廣野勇夫		
十七区 中山 一	岸本博一	由良隆彦	
十八区 谷川朋彦	矢谷平夫	真岡修治	